

理学療法学科 1・2年 作業療法学科 1年

授業科目名	レクリエーション実技
区分	選択
学期、単位、時間	後期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	レクリエーション実技
担当講師	国近 敏伸
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《関連資格 作業療法士 レクリエーションインストラクター 》
授業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・障害とスポーツについての理解を深める。 ・レクリエーション事業の理論を応用し、実習など実践の場においてレクリエーションを活用できるようにする。 ・コミュニケーション・ワークを通して他者との意見交換を行い、対象者のニーズ、治療的意義を考察出来る。 ・目的・対象に合わせたレクリエーション・ワークを学ぶ。 実践：地域との交流事業
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーションの効用について述べる事が出来る。 ・理学療法・作業療法の実践とともに、治療的に活用できるプログラムを作成、実施できるようにする。 ・実施後に考察を行い、改善できる。
授業の概要	1. 2. 3. 4. レクリエーション支援のプログラムとプログラムの組み立て パラリンピックの歴史 個々人のアセスメントに基づいたプログラム ホスピタリティ アイスブレーキング 環境設定とアレンジ <到達目標> 座学・実践を通し、治療的に用いる為のプログラム作成ができるようになる 5. ～ 15. レクリエーション支援の実施 対象者と活動現場を想定したレクリエーション支援を実施 プログラム実施し、評価しあう。 実習事業について 地域高齢者との交流（2回予定：10月14日（土）と12月16日（土）※天候等 等で変更になる場合もあり） <到達目標> 考えたプログラムを安全に実施でき、考察することができる。
テキスト 参考書	「レクリエーション支援の基礎」 財団法人日本レクリエーション協会 配布資料
評価の方法	レクリエーションプログラム作成と実施 課題発表（評価基準は別紙参照）
授業の形式 受講上の注意	座学と実技を交えて行う 実習・研修 ボランティア参加も評価（課程認定校の研修、県レクの研修ほか）

	A 4点	B 3点	C 2点	D 1点
目的・理解 (思考判断)	対象者(集団)にとって楽しく安全に配慮した計画が作成でき、達成したい目的が明確である。	対象者(集団)にとって楽しく安全な計画であったが、目的の設定が不十分であった。	目標は設定できたが、実施が困難であった。 対象者(集団)のレベルと内容が解離している。 安全面に問題があった。	対象者(集団)への配慮不足で実施できず、達成したい目的の設定もできない。
技能・表現 (表現力)	対象者(集団)の反応を読み取り、十分なコミュニケーションの促進がはかれた。	対象者(集団)の反応を読み取り関わるが、偏りがありコミュニケーションの促進は不十分であった。	対象者(集団)の反応を読み取る努力をしたが、コミュニケーションの促進は図れなかった。	対象者(集団)の反応に注意が向けられず、資料を読むだけであった。
声・意思 (伝達力)	明瞭な声と口調、適切な音量、デモンストレーション・ジェスチャー等で相手に伝える意思をはっきりと持っている。	明瞭な声と音量であるが、デモンストレーション・ジェスチャー等の表現が少なく、相手に伝える意思は弱い。	声が聞きにくく、説明が不十分でデモンストレーション・ジェスチャーを行っているが、相手に伝わりにくい。	声が聞きにくく、相手に伝える意思も弱い。
準備 (準備・発表 時間)	準備をしてきた成果が十分に発揮され、指定された時間通りの発表である。 <発表時間の目安> 15分±2分以内	準備をしてきた成果が発揮され、概ね指定された時間通りの発表である。 <発表時間の目安> 15分±3分以内	準備がやや足りておらず、指定された発表時間に終われなかった。 <発表時間の目安> 15分±4分以内	準備が不十分であり、指定された発表時間通りではない。 <発表時間の目安> 15分±5分以内